

令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市内野里小学校の結果概要

令和８年度の全国学力・学習状況調査において、国語科の本校の平均正答率は５８％で、全国平均正答率６０．９％に対して２．９％下回っている。算数科では、本校の平均正答率は５７％、全国平均が５６．４％で０．６％上回っている。また、平均無回答率は本は国語科では０．９％、算数科では０．５％、全国平均は国語科３．４％、算数科３．２％と粘り強く最後まで問題に取り組もうとする姿勢がうかがえる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

相手に伝わるように理由や事例を挙げながら話の中心や構成を考える力がついており、資料の活用や文章の表現の工夫を読み取ったり、自分の考えをまとめて書く問題の正答率が全国平均と比べて高くなっている。特に、文章を読んで自分の経験と結び付けて書く問題では、全国平均が７６．４％の正答率に対して本校の児童の正答率は８８．６％であった。しかし、比喩や反復などの表現技法や、漢字などの知識理解が全国に比べて正答率が低く、学習の定着に課題がみられる。表現技法に気づくことができるかの問題に対しては、全国平均が６５．２％であったのに対して、本校は５１．４％、漢字の書き取りについては全国平均が４５．２％に対して本校は３７．１％であった。

〔算数〕

図形領域の知識理解が深まっている。体積を求める問題では全国平均正答率が７２．７％に対して本校は７７．１％と理解が深まっている。一方で単位量当たりの大きさを求める問題では全国平均正答率は３６．１％に対して本校は２５．７％にとどまっており、多くの児童にとって今後の確実な定着が必要な課題となっている。

質問調査より

「５年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に対して全国平均回答率は７７．６％に対して本校は８７．５％と高い回答率となっている。日頃の授業において児童が主体的に学ぶ姿勢や、自分の頭で考えようとする意欲がしっかりと育っていることがうかがえる。一方で正答率の課題を踏まえると、「意欲がある」状態から、つまづきを乗り越えて「正確に概念を理解し、使いこなす力」へ昇華させるための支援や手立てをさらに充実させる必要がある。

今後の取組（アクションプラン）

昨年度は説明的な文章から学びを広げ深める実践へアプローチしてきたが、今年度は「書くことで自らの学びを広げ深める国語科学習指導～文学的な文章の実践を例にして～」を研究主題とし教育活動を進めている。主体的に学ぶ姿勢を大切に、書く活動のみならず話す活動や知識理解を深めさせる取り組みを進める。今年度より、「野里タイム」を設定し、５時間目が始まる前に言葉集めや、お題を決めたしりとり、部首が同じ漢字の書き出しなど、楽しく学びながら語彙を高める活動に取り組んでいる。